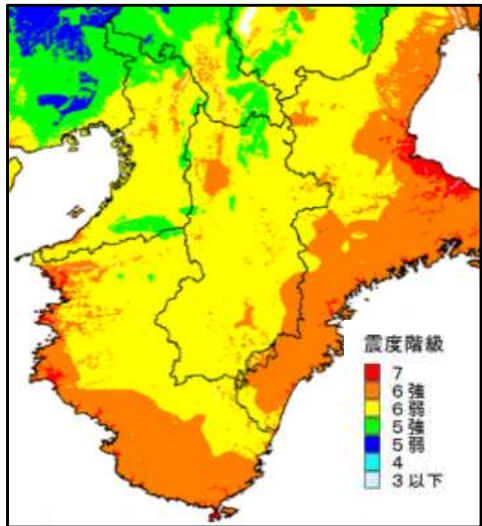


# 奈良県大規模広域防災拠点整備基本計画の概要①

## ＜南海トラフ地震で想定される被害と確率＞

南海トラフ巨大地震の震度分布図※

### 陸側ケース



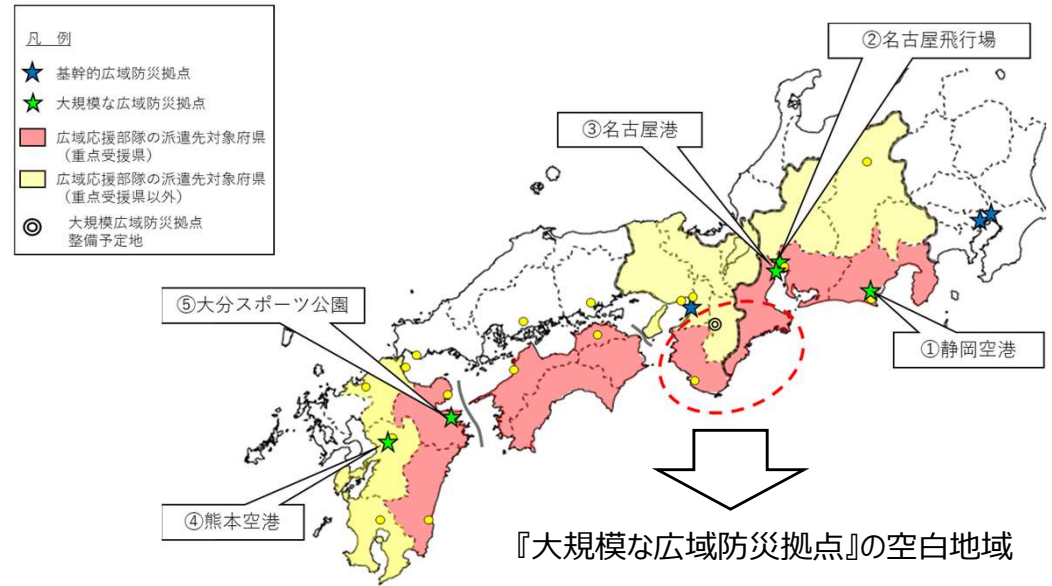
※出典：内閣府ホームページ

- 最大震度等  
奈良県での最大震度6強  
紀伊半島での最大震度7  
最大津波高27m
- 3県の被害想定  
奈良県  
・死傷者 約19,700人  
・住家全壊棟数 約47,000棟  
三重県  
・死傷者 約91,000人  
・住家全壊棟数 約224,000棟  
和歌山県  
・死傷者 約119,000人  
・住家全壊棟数 約190,000棟
- 確率 今後30年以内に発生する  
確率70～80%

出典：中央防災会議幹事会  
南海トラフ巨大地震について（一次報告）  
（平成24年8月29日）

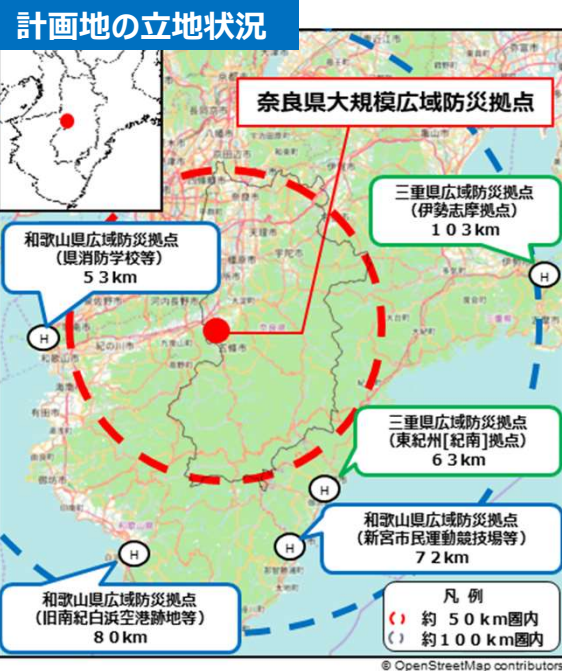
## ＜紀伊半島における課題＞

- 『大規模な広域防災拠点』は全国に5箇所指定されているが、紀伊半島は空白地域となっている。



## ＜計画地の概要＞

- 紀伊半島沿岸部の大部分が概ね100km（空路で約30分）圏内
- 紀伊半島アンカールートの結節点であり、紀伊半島沿岸部への救助救援等の活動が可能
- 近隣に奈良県ドクターヘリの駐機する南奈良総合医療センターが立地

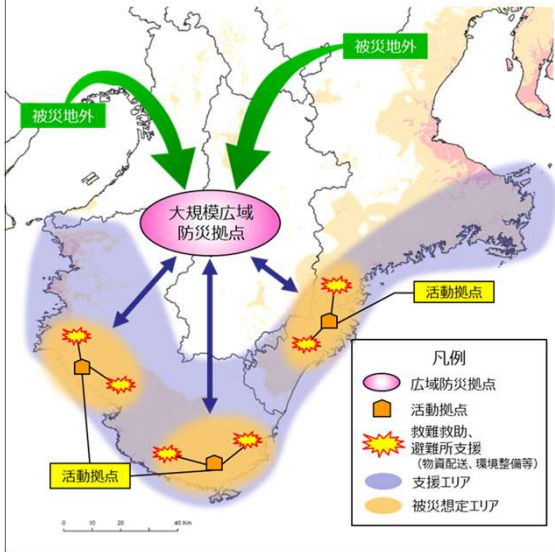




# 奈良県大規模広域防災拠点整備基本計画の概要②

## <大規模広域防災拠点の基本的な考え方>

### 南海トラフ地震を対象とした災害活動の位置づけ



○ 紀伊半島全体の救助救援等の主に空からの活動拠点としての機能を担う。

○ 支援部隊の集結拠点、大量物資の中継・配分拠点としての機能を担う。

## <具体的な活動内容> ○的確な災害救援活動のため、高次の機能を設ける。

情報収集	○被災情報の迅速かつ正確な把握・伝達・集約 ○被災地や被災施設等の状況を上空から撮影 ○映像や関連情報を政府緊急災害対策本部等と共有
人命救助	○被災地内及び周辺の部隊を最大限動員し、初期の人命救助 ○発災後72時間を念頭に、近隣及び広域の災害応援部隊を集結・派遣し、多数発生が見込まれる負傷者の人命救急
医療活動	○DMATの参集拠点となり、被災地へ派遣し、負傷者の救命・救護 ○SCU（航空搬送拠点臨時医療施設）を設置し、緊急度判定、安定化処置を実施 ○傷病者を航空機、救急車等により被災地内外へ搬送
物資支援	○発災直後における備蓄物資（食料・毛布・トイレ等）の提供 ○発災後4日～7日におけるプッシュ型支援物資（基本8品目+水）の受入・配送 ○発災後8日以降は被災地のニーズを踏まえたプル型支援物資の受入・配送
移動支援	○被災地を訪問中の旅行者の早期帰宅を支援 ○住宅全壊等被害者のうち、広域避難希望者を域外搬送

## <平常時も含めた防災拠点の活用方法>

○奈良県の航空拠点として活用

- ① 奈良県防災航空隊、奈良県警察航空隊、奈良県ドクターヘリの拠点として活用・運用

○災害対応力強化

- ① 発災時の現場隊員の能力強化
- ② 防災拠点立ち上げ・運営調整能力の強化

○防災啓発、防災技術開発

- ① 県民に親しみやすい防災教育啓発施設
- ② 防災技術等に関する研究のテストフィールド

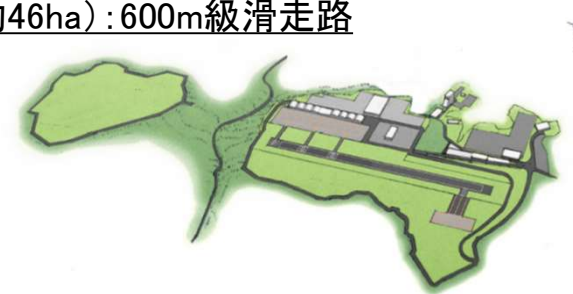
## <大規模広域防災拠点の段階的整備>

○防災拠点としての効果を早期発現するため、段階的に整備。

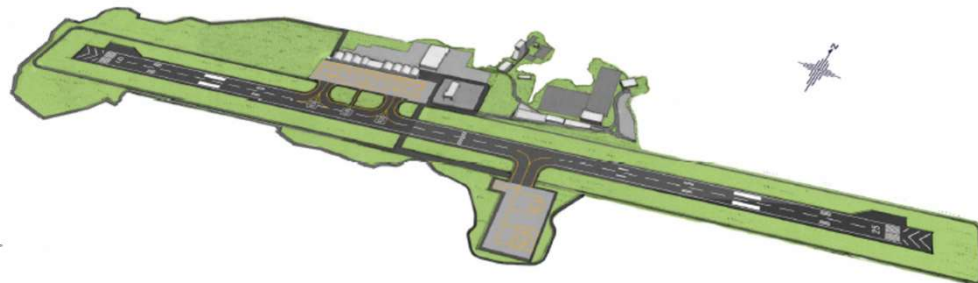
I 期(約5ha)



II 期(約46ha): 600m級滑走路



III 期(約73ha): 2,000m級滑走路



### 【主な施設内容(III期)】

指令本部
2,000m級滑走路、駐機場(給油施設)
ベースキャンプ、宿営棟
SCU(航空搬送拠点臨時医療施設)
備蓄倉庫(荷捌き場)
災害対応力強化施設